

『当院における下肢静脈瘤治療』

新緑が鮮やかに映える季節となり、貴院ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。地域医療に尽力されている皆様には、ますますのご健勝をお祈り申し上げます。中通総合病院の大山です。

さて、当院では下肢静脈瘤の診断と治療にも力を注いでおります。

(秋田県では数少ない下肢静脈瘤血管内治療の資格を当科では全員が有しております。

当院HP <https://www.meiwakai.or.jp/nakadori/paramedical-personnel/field/cardiovascular> をご参照ください)

そこで、今回は下肢静脈瘤についてご案内させていただきます。



心臓血管外科HP

下肢静脈瘤について

下肢静脈瘤は、伏在静脈の弁不全や穿通枝からの逆流が主な原因の一次性下肢静脈瘤と深部静脈の弁不全や血栓症などが原因の二次性下肢静脈瘤があります。

主な症状

- 血管の膨らみ(コブ状)、クモ状・網目状の血管拡張
- 足のむくみ、だるさ、重さ
- こむら返り(足がつる)
- 痛み、かゆみ

診断方法

診断には主に超音波検査(ドップラーエコー)を用い、静脈の逆流を評価します。手術前には全体像を把握するためにMRIでも評価を行います。



図3 / 一次性下肢静脈瘤の形態分類

- (a) 伏在静脈瘤
- (b) 蜘蛛状静脈瘤
- (c) 網目状静脈瘤
- (d) クモの巣状静脈瘤

一次性下肢静脈瘤の形態分類、伊藤孝幸：うっ滞性潰瘍・下肢静脈瘤、皮膚外科学改訂第2版：625、2020、秀和社より引用

治療法について

下肢静脈瘤の治療は症状や進行度に応じて選択されます。保存療法として弾性ストッキングの着用などが推奨されますが、これらは症状緩和が目的で根本治療には至りません。当院で行っている主な治療法は以下の通りです。

・高位結紮術

主に小伏在静脈に対して行います。高周波治療と併用して再発の予防を目指しています。

・ストリッピング手術

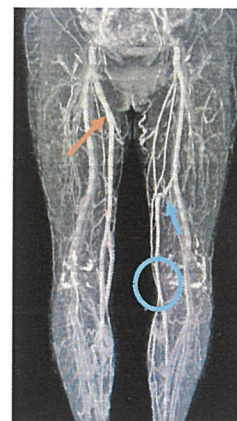
静脈を抜去する従来型手術です。高周波治療の適応から外れる場合に考慮します。

・血管内焼灼術(高周波治療)

静脈内にカテーテルを挿入し、高周波エネルギーで伏在静脈を加熱して閉塞させる方法です。当院では特にこの高周波治療を主軸としており、安全性が高く効果的です。

当院 MRV (MRI)

- : 大伏在静脈の拡張
- : 穿通枝の逆流
- : →が原因による大伏在静脈の拡張



そのほかに硬化療法やグルー療法などを行っております。当院では高周波治療を全身麻酔下で行っており、手術中の不安や痛みから解放され、リラックスした状態で治療を受けていただけます。また、日帰り手術ではなく1泊入院で対応しておりますので、術後のベッドも確保しております。

下肢静脈瘤は、適切な診断と治療により症状を改善し、患者様の生活の質(QOL)の向上に大きく寄与します。貴院で下肢静脈瘤の症状にお困りの患者様がいらっしゃいましたら、静脈瘤治療に知識と経験がある医師、看護師が対応いたしますので、ぜひ当院の『血管外来』へご紹介ください。

文責：心臓血管外科 大山 翔吾